

オーストラリアで初の回転寿司店

ジョーz

# 時代の流れとニーズを汲む「Jaws」

1995年にパースに産声をあげた回転寿司店の「Jaws」。日本で寿司屋と和食屋の2店舗を経営する板前から転身してJawsを創業した父や、そのJawsについて娘の川島貴子さんにお話を伺いました。



明るくスタイリッシュな Jaws Town Hall 店の店内。ひとたび営業が始まれば、レーンには色とりどりの新鮮な寿司が流れ、「いらっしゃいませ」と威勢のよいスタッフの声が響き渡る。

## 「完全にパパっ子でしたね」

「日本にいた頃の父は休みも少なく、遅い時間に帰宅する毎日で、あまり一緒に過ごした記憶はありません。その頃、まだ幼稚園児だった私は、たまに会える父の手を引っ張って公園に連れて行き、一緒に砂場でお寿司屋さんごっこをしていました。私がこねた泥で父にお寿司を握ってもらい、それを私が並べて、みたい。今でも鮮明に覚えています」

「父はいつも優しく、面白くて、大好きでした」と Jaws 創業者であり、父である平山善将さんとの幼少時代を教えてくれた川島貴子さん。

## 多忙な日本生活からの脱出とパースでのリタイア生活

善将さんは、東京で20年間、寿司屋と和食屋の2店舗を経営していた。毎朝、魚河岸へ行き、閉店の夜遅くまでカウンターに立って仕事をする毎日だった。多忙な生活に疲れを感じ始めていたちょうどそのとき、健康診断で尿管結石が見つかることに。それをきっかけに善将さんは店舗を畳んで、日本を離れることを決断する。

「海外に移住するという話を最初に知ったのは、私が中学一年生にあがったばかりの頃。3歳年上の兄から『日本を出て家族で海外に住みたい』と父が言っている、と聞いた時のように思います。それも、当初の話では『オーストラリアではなく、ハワイに移住するかも』と聞いていたので、アメリカのハイスクール生活を夢見て、単純に嬉しかったです。けれど到着したのはパースの空港で、そのあまりのひと気のなさ、ブッシュばかりが目に見え込んで、一気にテンションが下がってしまいました(笑)」

「父にとってのパースへの移住は、寿司屋を開くことではなく、他の人よりも早いリタイアでした。なので、移住してからの約5年間はゴルフにカジノに、といった生活を送っていたようです。今でこそ父は、『仕事もせず明日は何をしようか、と考える生活は嫌。ある程度の束縛があった方がよい』と言っていますが、きっとあ